

JAきたみらい CSRレポート 2016



きたみらい農業協同組合

〒090-0813
北海道北見市中ノ島町1丁目1番8号
TEL: 0157-32-8777(代表)
FAX: 0157-32-8778
<http://www.jakitamirai.or.jp>

JA kitamirai Co-operative Social Responsibility Report 2016



シンボルマーク

日照時間が長いJAきたみらいの空に燦々と輝く太陽と大雪の山々からオホーツク海にそそぐ常呂川とJAが歩むべき道を表現しました。太陽の光を構成する8つの楕円は、8地区が力を合わせ発展していく様を表しています。

JAきたみらい CSRレポート 2016 について

編集方針

本レポートは、持続可能な社会へ向けて、JAきたみらいが事業活動を通じどのような役割を果たしていくのかを考え、その果たすべき役割と取り組みについて報告しています。
組合の紹介も兼ね備えたコミュニケーションツールとして、今後も、ステークホルダー(利害関係者)の皆様にご適切で透明性の高い情報をお伝えして参ります。

対象読者

JAきたみらいにかかわる、あらゆるステークホルダー(利害関係者)を対象読者としています。

対象期間

2015年(2015年2月1日～2016年1月31日)の実績ですが、活動や取り組み内容は過去に遡った情報も掲載しています。
また、最新の情報をお伝えするために、直近の情報も一部紹介しています。

問い合わせ先

きたみらい農業協同組合 総務企画部 企画人事グループ
TEL:0157-32-8782 FAX:0157-32-8778

発行情報

発行日:2016年6月
次 回:2017年6月(前回2015年6月)

JAきたみらい CSRレポート CONTENTS

JAきたみらいCSRレポート2016について	1
1. トップメッセージ	4
2. 特集	
「食」と「農」～地域から全国へ、広がるみらい～	5
特集 1 力強い農業のために	7
特集 2 魅力ある地域のために	9
3. コミュニケーション	13
4. よりよい環境をつくる	15
5. CSR経営の基盤	17
6. 人“財”づくり	19
7. 組織概要	21
8. JAきたみらいの事業	23
9. 第三者意見	26



「組合員とともに、
組合員による、組合員のため」の
地域に貢献する
「魅力あるJA、選ばれるJA」を目指します。

JA綱領

- わたしたちは、
1. 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
 1. 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
 1. JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
 1. 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
 1. 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがい追求しよう。

経営理念

1. 私たちは、
「全ては組合員のため」という奉仕精神のもと、多様化する組合員ニーズに的確に応え、
その健全経営の手助けを行います。
2. 私たちは、組織・事業活動を通じて、組合員、利用者、地域から信頼される人材づくりに努めます。
3. 私たちは、食と緑を守り、地域農業を振興することで、地域社会の活性化を図ります。

経営信条

組合員との信頼関係構築の第一歩は、現場に出向き、
現場とのコミュニケーション活動を通じて現場を知ることにあります。

事業運営方針

1. 市場原理の選択競争の中でも、生き残っていける強固な事業運営方式を確立します。
2. 民主的運営を基本に組合員への公正・公平な メリットの還元を追求します。
3. リスクを見極めながら、新たな事業運営に積極果敢に挑戦する
自己決定・自己完結型の経営を目指します。

トップメッセージ

きたみらい農業協同組合

代表理事組合長 西川 孝範



皆様方には、日頃よりJAきたみらいの事業につきまして、多大なるご協力・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

JAきたみらいは、平成15年に8つのJAが合併して誕生した組織で、北見盆地の輝かしい未来を願い「北見(きたみ)」と「未来(みらい)」をあわせ「きたみらい」と名づけられました。当地区の農業は、玉ねぎ・じゃがいもを中心に麦類、てん菜、豆類、水稻などの耕種作物に加え、生乳をはじめとする畜産物を多様に生産しているのが特徴で、その販売高は全道ではもちろんのこと、全国でも有数の取扱いとなっております。

さて、農業・農協を取り巻く情勢において、TPP大筋合意や農協改革など、極めて大きな変化の中にあります。TPP交渉については、交渉に関する情報開示が不十分で国民的議論がないまま、昨年の10月に大筋合意がなされました。国に対しては合意内容の全容と影響、さらには国会決議との整合性について十分に説明責任を果たすとともに、生産者の不安を払拭し若い農業者が希望を持続けられるような農業の確立に向け、万全な対応がなされるよう要請していく所存です。また、農協改革については、その主要な目的である法改正と農業所得向上との関連性などの理解が十分に進まない中、准組合員制度のあり方などの重要案件が今後の検討課題となっており、改めて地域農業の振興や農業経営への影響がないよう、政府に対する働きかけを含め、関連する取組みを進めて参ります。そのような中、JAグループ北海道では「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現を基本目標として、今後3ヶ年にわたり取り組んでいくことになりました。当JAにおいては、組合員・組合員家族・役職員がともに力を合わせながら「食と農でつながるサポーターづくり」を推進し、「魅力あるJA・選ばれるJA・地域に貢献できるJA」であり続けたいと考えております。

さらに、近年、異常気象が頻発する傾向があることから、気象変動に負けない農業の確立にむけて、土地改良・技術導入等、種々の対策に取組み、また収量・品質の安定化のため、輪作体系の再構築によって農業経営の安定、所得の向上を目指します。

これからも、JAきたみらいでは、全国の消費者の皆様へ「安全・安心」な農畜産物を安定的に供給することにより社会的責任を果たして参ります。そのためにも、組合員をはじめ青年部・女性部・フレッシュミズ・役員・職員が、JAの課題を共有し、課題解決に向けて共通認識を図り、総合JAの原点に立ち返るため策定した「JAきたみらい学習大綱」の実践に向け、組織全体として協同組合活動の取組みを強化して参ります。

また、信頼される組織作りを目指し、法令、企業倫理の遵守を強化するため、コンプライアンス推進を進めるとともに、コーポレート・ガバナンス体制のさらなる強化、組合員・消費者の満足度向上、CSRや社会貢献活動の推進、人材育成の一層の充実など継続して取り組んで参ります。



食と農

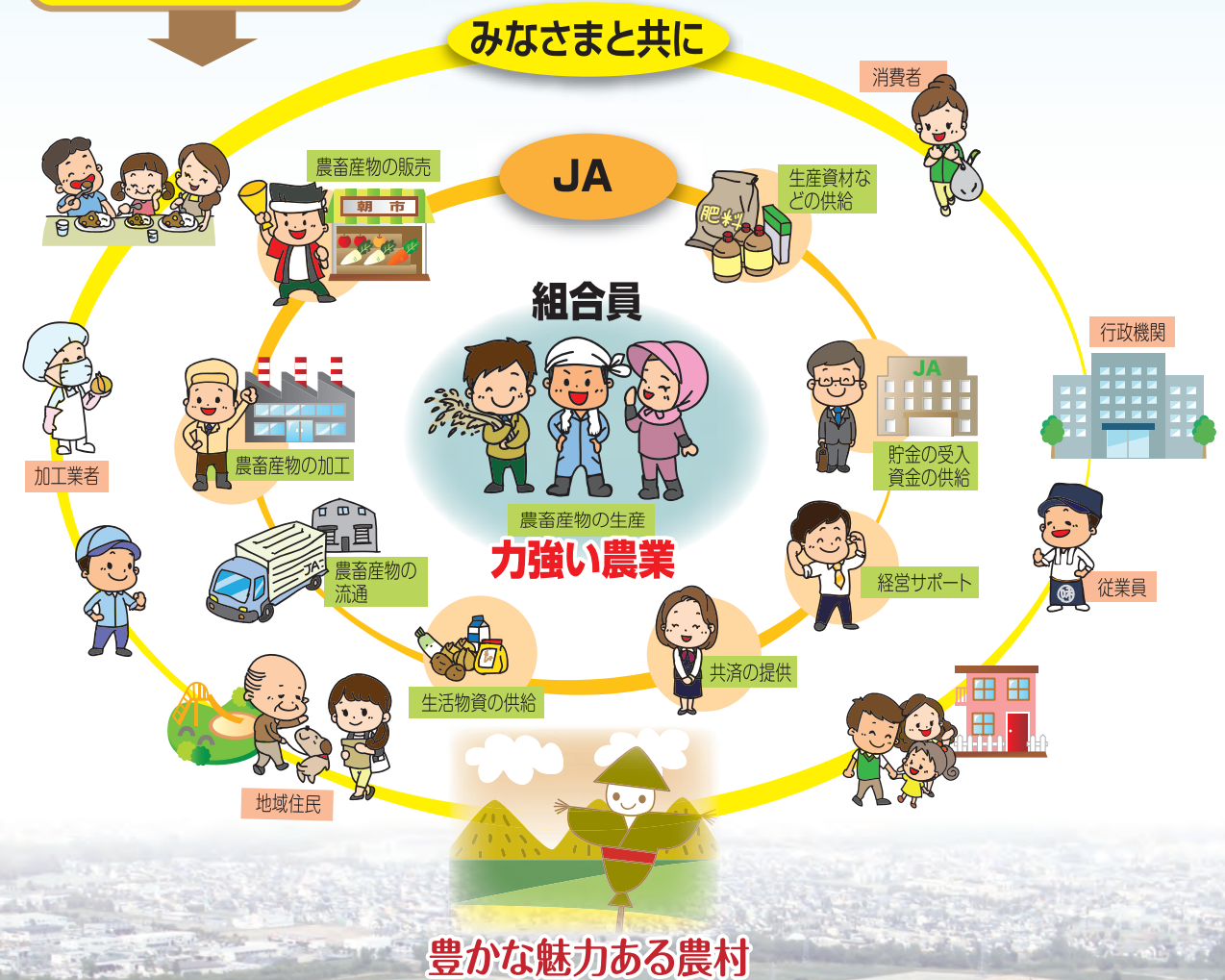
～地域から全国へ、広がるみらい～



地域と共に創る 「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」

持続可能な力強い農業・
心の豊かさと誇りを実感できる魅力ある農村のために、
安全・安心な農畜産物を安定供給するJAグループの使命を、
将来に亘って果たしていく

農業・農村の目指す姿



きたみらいは、JAの持つ使命を果たし、
地域から全国へ広がるみなさまとのつながりとともに、
農業・農村のみらいを創っていきます。

力強い農業のために

消費者の皆様が笑顔になる、おいしい農畜産物をいつでもお届けすること、それが私たちの使命です。

私たちJAは組合員とともに、信頼される“力強い地域農業”の創造に取り組んでいます。

作物別部会の取り組み

選ばれる産地を目指して安全・安心で高品質な農畜産物をつくるために生産者自らが協議をして、ルールを作り生産者全員でルールに沿った肥培管理、出荷体制に取り組んでいます。

JAは各生産組織の事務局として、予算管理はもちろん、組織活動に関する事務作業や会議等で各生産組織の構成員である生産者の皆さんと一体になって活動を行っています。

作物別部会とは：同じ作物を生産する生産者が、その作物に関する内容について協議・検討する組織

高品質・高収量の生産を目指して

同じ作物を作る仲間が集まって、その作物に関する栽培技術などJAや普及センターと一体となって、学習会や畑などの現地で講習会を開催したり、それぞれの生産者の畑やハウスを巡回し、生育の確認を行ったり、収量の調査を行うなど、高品質・高収量の生産を目指し、生産者間でも切磋琢磨しています。



安定供給への取り組み

産地の責任として消費者の皆さんに農畜産物を安定的に供給することが求められています。そのために、玉ねぎなどでは、早生や中生、晩生などの品種を組み合わせて作付し、出荷時期を調整することで、長い期間消費者の皆さんに供給出来るよう工夫しています。



より信頼される産地に向けて

生産者自らが都府県の市場や量販店に出向き、直接自分たちが作った生産物の価値を伝え、また消費者のみなさんの生の声に触れることで、求められることに応じていく産地としての取り組みを行っています。



こうした部会の取り組みを通して、消費者のみなさまに選ばれる食の提供を目指しています。
そして選ばれ続けることが、持続していく“力強い農業”の活力です。

JAの“出向く”サポート体制

JAは“力強い農業”を目指して生産者の努力を所得につなげるよう、農家組合員のもとに出向き、様々なサポートを行っています。

営農

くらし



営農指導部門 《組合員ふれあい室》

一年間の営農サイクルに応じた生産技術、経営管理の相談に対応し、最新情報の提供等、各部署と連携してあらゆる面で生産をサポートしています。



購買部門 《資材推進グループ》

農業や肥料、飼料の知識を持った職員が専門推進員として、組合員に商品等の情報を提供しています。
推進にあたっては、ただ農業などを供給するだけではなく、その圃場に合ったより良いものを提案する指導購買を実施することで生産コスト低減にも貢献しています。



金融・共済部門 《総合渉外課》

平成28年度に「総合渉外課」を新設し、共済・年金・融資等の総合的な提案を行っていくことで、地域の方々の暮らしをサポートします。



営農支援システムで迅速・充実のサポート

より充実した組合員へのサポートを行うため、(株)JA北海道情報センターの協力を得ながら、組合員の生産に関わる様々な情報を一元化し、タブレット端末等で検索することができるようになりました。

組合員の方々に対する情報提供や営農指導のさらなる充実に向け、取り組んでいます。



魅力ある地域のために

きたみらい地域の農業を振興することで、地域の方々へ、
未来を支える子供たちへ、
食育や様々な活動を通じて農村の魅力を発信していきます。

1

よりよい社会へ向け

2

農村の魅力

行政と一体となった農業振興

農業が基幹産業であるきたみらい地域の1市2町、JA共済組合、普及センター等で構成されている「北見地区農業振興連絡協議会」があり、農業者のための農業技術研修や担い手対策への支援、地域の方々に対して地産地消の取組みや食育の取組みに対する支援を北見地域全体で行うために協議・活動をし、農業振興を図っています。

北見地区農業振興連絡協議会

北見市・訓子府町・置戸町・JAきたみらい・オホーツク農業共済組合

担い手・地域振興・情報部会

農業・技術部会

畜産部会

将来の担い手

首都圏で販売体験

未来を担う子供たちに第1次産業である農業の重要性や食の大切さを理解してもらい、関心を深めてもらうため、JA組合員の子供たちを対象に、東京で販売体験・市場見学を行っています。



販売体験では、JA千葉みらいの直売所にて、きたみらい産の玉ねぎとじゃがいもを自分たちで袋詰めし、お客さんに元気にPRして販売しました。市場見学では、きたみらい地域で収穫された農産物が実際に運ばれてくる現場を見学しました。

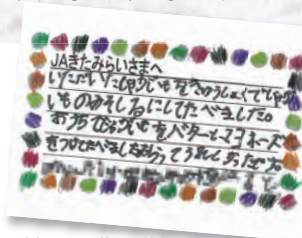


この経験を通して、食や農業に対してより興味を持ち「将来農業をしたい、食に関わる仕事がしたい」と思ってもらえるよう願っています。

食の大切さを伝える

地元農畜産物を子供たちへ

地元農畜産物に親しんでもらおうという食農教育活動の一環として、北見市、訓子府町、置戸町の1市2町へ地元産の玉ねぎとじゃがいもを送っています。



津軽からお礼の手紙

いもは、食農教育パンフレット「いもくん」とともに、保育園や子どもたちに届けられます。

また、JA名に「みらい」を冠したJAのつながりで、JA津軽みらい地域の子供たちを送りました。JA津軽みらいが届けられ、北見地域の小学校や保育園へプレゼントされました。

して、北見市、訓子府町、置戸町の1市2町へ地元産の玉ねぎとじゃがいもを送っています。

したJAのつながりで、JA津軽みらい地域の子供たちを送りました。JA津軽みらいが届けられ、北見地域の小学校や保育園へプレゼントされました。

1市2町の小学校に教材本を贈呈

私たちの生活に欠かせない「食」と「農業」、また「環境」と「農業」のつながりを意識し、農業への理解を深めるきっかけになることを願い補助教材本を作成し、全国のJAバンクから全国の小学校に贈呈されています。



安全・安心な地元食材を使った「給食のコロケ」



原材料は全て北海道産で、ゲンを極力減らしたコロケ給食で提供されています。で、おいしい地域の食を味わってもらうため、地元の栄養士の方や組合員の女性組織の意見を反映し、開発しています。



農業が地域に根ざした農村だからこそその魅力があります。



地元住民とのつながり

作る人(生産者)と食べる人(消費者)との距離が近く、農村ならではのつながりがあります。例えば、各地区で行われている収穫祭をはじめとするお祭りでは、地域の方もたくさん訪れ、大いに盛り上がるイベントとなっています。

また、農業の方が小学校で農業体験を行う「出前授業」や、地元のお祭りへの参画をしています。



農家組合員の方々のコミュニティ

農家の経営者の方、後継者の方、またそのパートナーの方など、それぞれのコミュニティが積極的に活動しています。農業技術を学ぶための視察研修や技術研修、農業情勢に対する学習会などの研修会、運動会や料理教室等の交流行事など様々な活動を通して、生産者同士がつながり、農業の振興やより良い地域づくりに貢献しています。



食と農でつながるサポーター

北海道の食(道産農畜産物やその加工品)や農(農業、農村、農家)を応援し、JAの事業利用や組織活動に関わりを持って、共に参加・行動していただける仲間を『サポーター』と呼び、サポーター550万人づくりを全道運動として展開し、国民的合意・期待のもと日本の食料基地「北海道」としての役割を果たします。

3 サポーターづくり



1 「食べる」サポーター

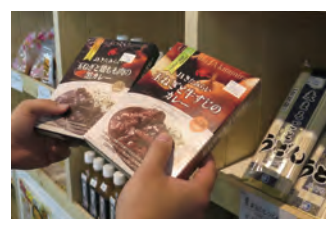


安全・安心・美味しい道産農畜産物やその加工品を優先して安定的に購入していただける仲間

きたみらいを選んで食べていただけるように、道内だけでなく道外での販売促進活動や地域のイベントに出店しています。JAだけでなく生産者の方も一緒に取り組んでいます。



地域や全国のイベントに出店



店頭で並ぶきたみらいの加工品



きたみらいの商品が買えるオンラインショップ

2 「利用する」サポーター



JAの事業・施設を利用していただける仲間

JAの事業は農家組合員の方だけでなく、地域の様々な方にもご利用いただいております。



生産資材
地域住民への園芸市の開催



燃料
ガソリンスタンド、灯油の定期配送



自動車
自動車販売、整備



共済部門
共済(生命・自動車・火災等)



金融部門
貯金・融資・年金

3 「参加する」サポーター



JAグループ北海道と様々な媒体・活動を通じて交流していただける仲間

JAでは、農業を知り興味を持ってもらうために様々な活動を行っています。



親子体験

農家体験

地域住民が親子で参加する収穫体験や、道外の学生の農業実習生受け入れを行っています。



道外実習受け入れ

きたみらいの食材や加工品を使ってお客様にPRしているお店



地元産のものを使用したいとの思いで、きたみらいの食材や加工品をいろいろな店で使用していただいています。



facebook



毎週きたみらいの情報を発信しています。コメントをしてくれる方が増え、たくさんの応援メッセージが届いています。

4 「行動する」サポーター



JAグループ北海道と食と農で強くつながり、ともに行動していただける仲間

私たちJAだけでなく、いろいろな企業の力が合わさって、生産物を全国に発信しています。



特産の玉ねぎを全国へ運ぶJRコンテナ



イラストできたみらいの農畜産物をPRしているトレーラー



たくさんの人の手を経て皆様のもとへ運ばれていく農畜産物



JAみらいサミット

全国に「みらい」を冠する7つのJA〔JA津軽みらい(青森県)、JAふくしま未来(福島県)、JA新潟みらい(新潟県)、JA千葉みらい(千葉県)、JA東京みらい(東京都)、JA兵庫みらい(兵庫県)、JAきたみらい(北海道)〕があり、年に1度、農産物の産地間連携や農業の将来に向けて協議を行う「JAみらいサミット」を開催しています。

サミットでは、多様な分野での協力や交流活動の拡大・努力を惜みず、組合員のニーズを的確にとらえ、JA本来の目的でもある『農業所得の向上と地域の活性化』に結びつくよう、総力を挙げて取り組むとの宣言を採択しました。今後も、JA間の連携を生かして持続可能な農業、地域の活性化等に向けて取り組んでいきます。

きたみらいから全国へ

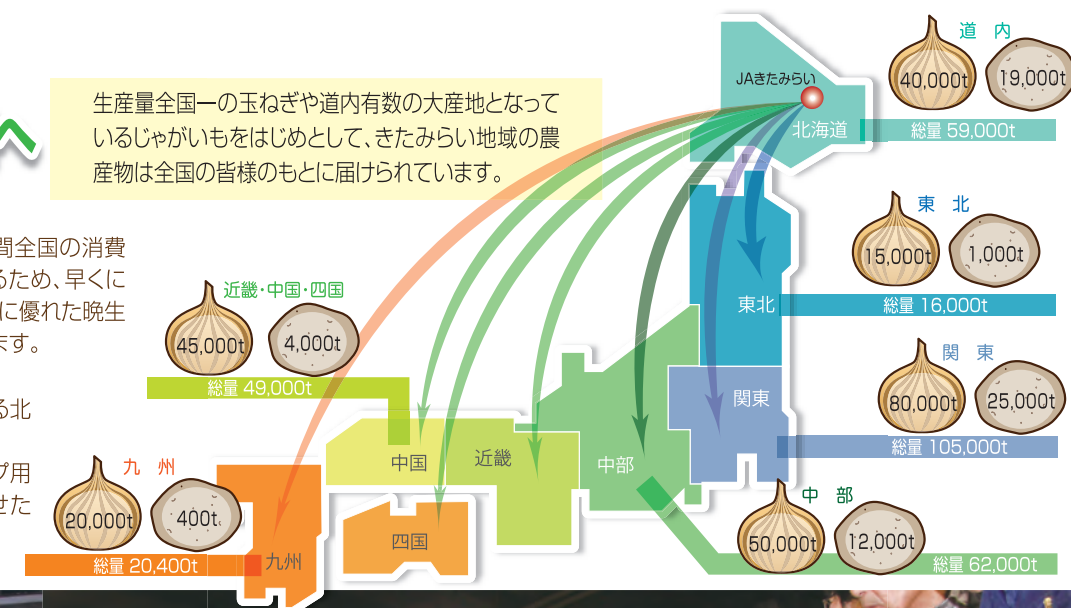
玉ねぎ

- 全国一の玉ねぎ産地
- 8月～翌年4月までの長い期間全国の消費者の皆様に安定的に供給するため、早くに出荷できる早生・中生・貯蔵性に優れた晩生など多くの品種を作付しています。

じゃがいも

- 全国一のじゃがいも産地である北海道でも有数の生産量
- 男しゃくをはじめ、ポテトチップ用やサラダ用など用途に合わせた品種を作付しています。

生産量全国一の玉ねぎや道内有数の大産地となっているじゃがいもをはじめとして、きたみらい地域の農産物は全国の皆様のもとに届けられています。



つながりをつくる

コミュニケーション

私たちは、組合員や地域の皆様とともに歩み、人との結びつきを大切にしています。そして、全国の皆様との絆を大切に、温かい関係づくりをめざします。

組合員、地域・全国の消費者とのつながりを大切に



地元の農畜産物を加工品として

きたみらいの特産物、玉ねぎ、馬鈴しょ、小麦などを使った加工品がぞくぞくと誕生しています。

HPから見る事ができるオンラインショップでは、きたみらいで作られたおいしい農畜産物・加工品を紹介しており、全国の皆様から直接注文頂けるようになっています。

また、地元コンビニの店頭に加工作品を陳列してもらい、地域の方へのPRもしています。



組合員向け広報誌、コミュニティ広報誌

正組合員・家族との絆づくりに向けた広報誌「おひさまサラダ」を毎月発行しており、准組合員や地域の方々には、きたみらい地域の農業のサポーターになっていただくため、コミュニティ広報誌「ぐりんgreen」を年3回ほど発行しています。

平成27年度は、全道のJA広報誌などのコンクールで、「おひさまサラダ」、「ぐりんgreen」、きたみらいのホームページの3つについて表彰されています。

情報を発信!

全国へ情報発信

HPでは、営農情報をはじめ農畜産物の紹介や食育の取組みなど、きたみらいのあらゆる情報を発信しています。

また、きたみらいのFacebookページでは、毎週イベント情報や地域の情報、作物の状況など、身近でホットな話題を掲載しています。地元はもちろんのこと、全国各地の方からのコメントも多く寄せられ、皆様との「ふれあい」のツールとなっています。



地域の祭りへ参加

農業文化が育んだ、郷土色豊かな祭りや各種催事に積極的に参加し、地元消費者との交流を深めながら、地域農業の情報発信にも努めています。

毎年、夏に北見市で開催される「ぼんちまつり」では、組合員と役職員がきたみらいの半被や浴衣で「舞踊パレード」に参加し、市民の皆様へJAをPRしています。



食の安心・安全 Ecoみらい

環境に配慮し独自の栽培基準を設定した、「Ecoみらいブランド」のたまねぎ、じゃがいもの生産に取り組んでいます。商品のコンセプトは、「顔が見える商品」「声が届く商品」「価値を伝える商品」。私たちは「農家の想いを消費者へ」「消費者の想いを農家へ」とつないでいきます。

項目	内容
生産者	JAきたみらい
生産地	北海道
生産品	たまねぎ、じゃがいも
生産方法	独自の栽培基準を設定し、化学肥料・化学農薬の使用を最小限に抑える栽培方法を採用している。
生産者への取り組み	生産者への研修や、生産者同士の交流の場を設けている。
消費者への取り組み	生産者との交流の場を設けている。
地域への取り組み	地域への情報発信を行っている。

JAきたみらい版の独自GAP(農業生産工程管理)手法を導入しています。また、使用した肥料や農薬についての情報を、広く消費者へ提供することで、顔が見える商品づくりを行っています。

顔が見える・声が 届く・価値を伝える 商品づくり

消費者やユーザーと生産者が交流会を行い、情報交換を行っています。また、販売促進活動とともに、地産地消の推進、食農教育活動を実施し、地域への情報発信を行っています。



オリジナルの統一栽培基準をはじめ、取扱要領や現品検査基準もきたみらい独自のものを設定しており、こだわりの栽培法によるこだわりの商品として、消費者の方々へお届けしています。



環境にやさしい農業へ

環境への負担を軽減するため、化学合成農薬、化学肥料の使用を北海道基準よりもさらに低減(20%~40%)しています。また、良い土をつくるために、堆肥や有機物を活用し、地力の向上に努めています。

Eco みらい	玉ねぎ
	110.90ha(73戸)
	じゃがいも
	74.76ha(40戸)

農業と自然との共存を目指して

よりよい環境をつくる

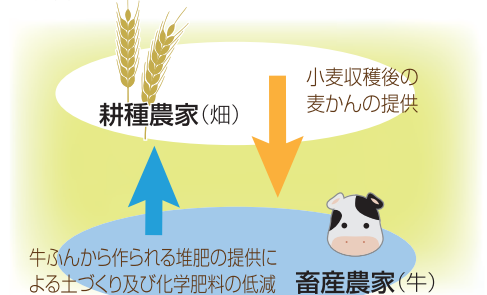
食を支える農業は自然に支えられています。環境にやさしい農業を実現するため、環境負荷軽減に努めています。



循環型農業

きたみらい地域には、玉ねぎやじゃがいも、てん菜、小麦など、畑に作物を作付している耕種農家や酪農(牛)を中心とした畜産農家など様々な農業経営の形態があります。

それぞれ必要な量以上は不要となる麦かんや堆肥などを相互利用することで、環境にやさしい農業に取り組んでいます。



環境にやさしい農業に向けて

項目	内容
生産者	JAきたみらい
生産地	北海道
生産品	たまねぎ、じゃがいも
生産方法	独自の栽培基準を設定し、化学肥料・化学農薬の使用を最小限に抑える栽培方法を採用している。
生産者への取り組み	生産者への研修や、生産者同士の交流の場を設けている。
消費者への取り組み	生産者との交流の場を設けている。
地域への取り組み	地域への情報発信を行っている。

化学肥料の使用にあたり、北海道基準よりも少なかったとしても作物の為に必要以上使用しないよう畑の土のサンプルをとり、土壌診断を行って必要量のみを使用しています。コスト低減はもちろんのこと、環境負担軽減にも努めています。

クリーン農業への取り組み

農業と環境との調和に配慮した「クリーン農業」では、より「安全・安心」な農産物を出荷するため、化学肥料・化学農薬を最小限または一切使用しない生産方法で栽培しています。生産者自らが取り組み、様々な基準に基づき生産に取り組んでいます。

平成27年実績

有機栽培	化学農薬・化学肥料を一切 使用しないで栽培	 6.75ha 5 戸	
特別栽培	基準に対し、化学農薬・化学 肥料を半分に以下に抑えて栽培	 157.70ha 67 戸	 126.32ha 47 戸
クリーン栽培	道で定められた基準を基に 化学農薬・化学肥料を減ら して栽培	 78.28ha 61 戸	 170.23ha 42 戸

玉ねぎの廃棄物利用

日本一の生産量を誇る玉ねぎの主産地として、きたみらいでは、玉ねぎをイメージしたオリジナルの制服を着用しています。

男性・女性総合職用の上着と女性用のブラウスには、玉ねぎのオニ皮から色素を抽出して染色した草木染色地を使用しており、ズボン・スカートなどはそれぞれ、様々な作物が命を育む緑の大地を表現する濃緑色となっています。

玉ねぎをPRし、大量に出るオニ皮を染料として役立てる、環境に優しい取り組みの一つとなっています。



玉ねぎオニ皮

抽出染料

16

コーポレート・ガバナンス体制

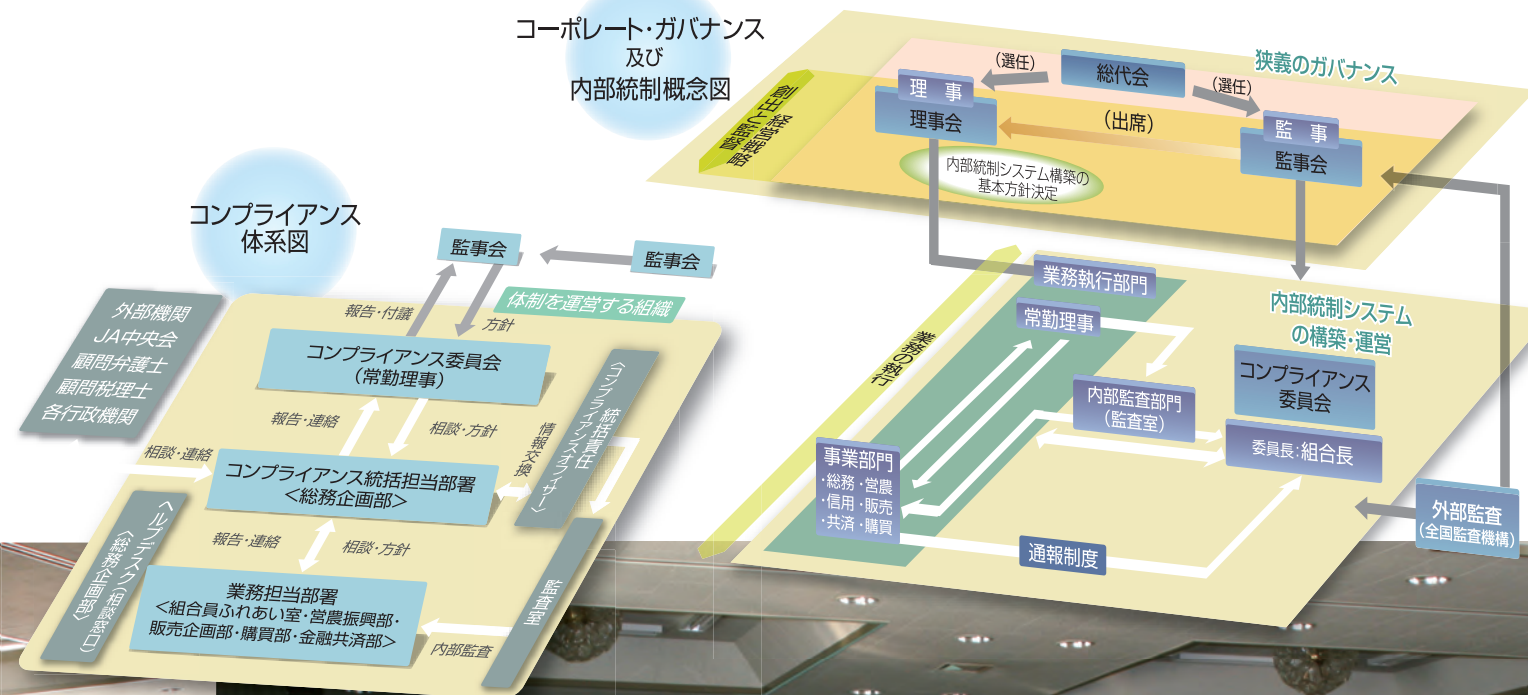


JAきたみらいでは、組織の社会的責任を果たし、地域農業の持続的発展と組織価値の向上を図るため、すべてのステークホルダー(利害関係者)の利益を尊重し、健全な業務活動を通じ、組織価値の向上を目標に、コーポレート・ガバナンス体制を構築し、豊かな社会の実現に貢献しています。

豊かな社会を目指すJAとして

CSR経営の基盤

コンプライアンスの徹底はもちろんのこと、一人ひとりが社会的責任を全うし、透明性のある組織づくりを行っています。



“きたみらい”のコンプライアンス

法令やルールを厳格に守ることにとどまらず、社会の構成員である1企業として、すべてのステークホルダー(利害関係者)の期待に応え、その信頼を得て社会的責任を全うすることを真のコンプライアンスとして経営の最重要課題と位置づけています。

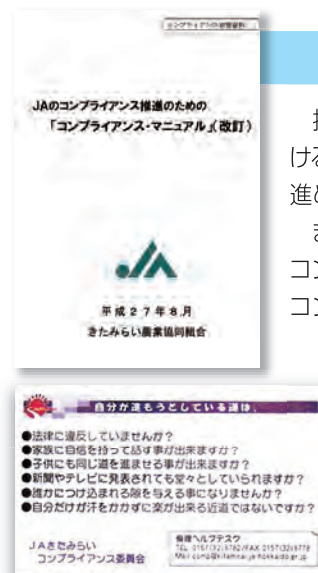
コンプライアンス研修

JAきたみらいでは、毎年、全役職員を対象としたコンプライアンス研修会を開催しています。

コンプライアンス徹底に向けた意識を持つことはもちろん、今の農業情勢やJAの目指すものなど、幅広い内容で研修を行っています。組合員、地域に信頼されるJAであり続けるために、そして、企業に求められる社会的責任を果たすべく、職員一人ひとりが必要な知識を持ち、その教育・研修を継続的に行うことをコンプライアンス推進の柱としています。

研修内容

- ・不祥事への対応
- ・メンタルヘルス
- ・コンプライアンス体制
- ・農協の大義
- ・報徳の精神
- ・個人情報の取り扱いについて
- ・情報セキュリティ



コンプライアンス推進体制

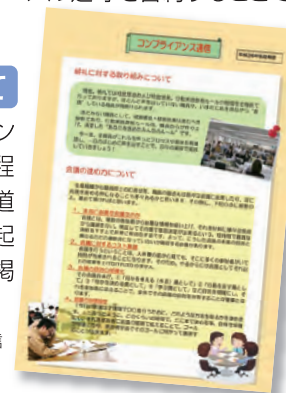
推進基盤 であるコンプライアンス委員会を定期及び必要に応じ開催し、日常業務における法令等の遵守状況のチェックを行い、JA全体のコンプライアンスへの取り組み強化を進めています。

また、職員一人ひとりにコンプライアンスに関するマニュアルと携帯カードを配布し、コンプライアンス推進に努めるとともに、全役職員がマニュアル遵守を誓約することで、コンプライアンスへの意識を喚起しています。

「コンプライアンス通信」の発行について

職場での啓蒙活動として「コンプライアンス通信」を発行しています。年に1～3回程度発行しており、「身だしなみについて」「道路状況に応じた安全運転」などの注意喚起や、「時間の活用」等、業務で役立つ内容も掲載しています。

コンプライアンス通信



内部通報制度とJA広域ヘルプライン

不祥事が発生しないようにするため、何か問題があった時は、直ちに経営トップに伝わる体制が必要です。職場の健全性を維持し、オープンな職場環境となるよう、当JAでは、自由に相談できる環境として内部通報の窓口を設置し、その補完として、JA北海道中央会相談センター内に系統共通の通報窓口として、「JA広域ヘルプライン」を設置しています。

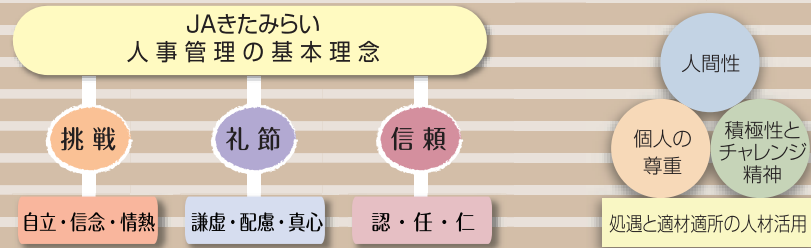
個人情報の保護

事業活動を行っていく上で、個人情報の保護は重要な課題であり、JAきたみらいでは、「個人情報保護方針」「個人情報取扱規程」を制定し、全役職員に周知徹底し、確実に実行するとともに、内部監査等で実施状況の点検を行っています。



人材育成の 基本戦略

- 人間性を高める人材育成教育を重視します。
- 一人ひとりの個性を尊重した人づくりを行います。
- 現状に安住することなく、積極性とチャレンジ精神を持った人材を育成します。
- 個性と能力に応じた処遇と適材適所の人材活用を図ります。



人事管理

職員行動 基本心得

1. 礼儀と礼節を守り、豊かな人間性の向上に努めます。
2. 常に謙虚な心で人の意見に耳を傾けます。
3. 情報収集力と分析力を磨き、時代変化に俊敏に対応し行動します。
4. 的確な判断力と相談対応力で組合員との信頼の絆を強めます。
5. 前向きな発想と創意工夫のチャレンジ精神で行動します。

人事制度

組合員の負託に応え、消費者に選ばれる産地であり続けるためには、職員一人ひとりの能力を最大限に発揮し、環境変化に俊敏に対応した取組みが重要となります。

JAきたみらいは、様々な制度を構築し、職員が働きたいのある職場環境作りを実践しています。

面接制度

職員個々の能力特性の把握、職務遂行能力を長期的に育成するため、担当職員とその上司が年に数回面接を行っています。

自己申告制度

1年に1度、自己の処遇やJAに対する意見などを述べる事が出来る機会を設けています。

複線型人事制度

高度化、専門化する業務の遂行にあたり、専門知識、能力、経験をもった職員に対し、その能力を積極的に発揮させると共に職員のライフスタイルに合わせたニーズに対応するための制度を導入しています。

人“財”づくり

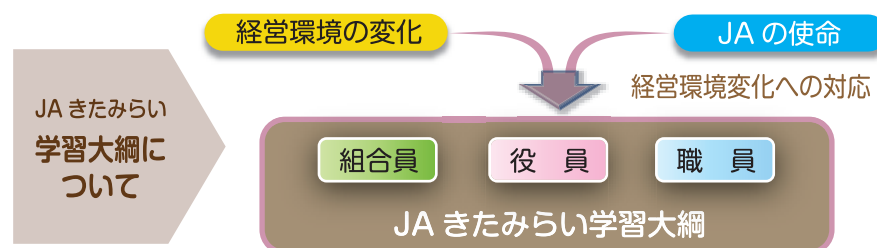
人と人との結びつきを大切にする、先を見据えた人づくり

人的結合が組織の特性であり、組合員・役員・職員が一体となった人づくりを行っています。



将来を見据え、組合員・役員・職員が一体となって協同組合運動の再認識と実践をすることで、持続可能な地域農業発展のための礎を再構築していきたいと考えています。

そこで、今までそれぞれで行っていた「学習」という分野に焦点をあて、組合員・役員・職員の代表者が話し合い、JAの課題を共有して課題解決に向けた共通認識を図り、制定したものが「JAきたみらい学習大綱」です。これをもとに、総合JAの原点に立ちかえり、学習する組織への改革を推進していきます。



組合員

作物別部会や青年女性組織等の自主的な学習活動を支援し、こうした組織活動への積極的な参加推進を行っています。



役員

信頼される人材作りと将来のリーダー育成、協同組合理念の再認識等、経営者として、組織・組合員のリーダーとして、様々な自己研鑽を図っています。

また、先進事例産地や消費地など、常に農業・農村を取り巻く情勢や動向に敏感に対応出来るよう様々な視察研修を行っています。

- 協同組合理念の再認識
- 率先垂範

職員

研修会



職位や経験に応じた階層別研修、担当部門に応じた部門別研修、また職員全体に対する研修等、様々な研修機会を設けています。

資格試験



初級から特級試験まで、JA職員として協同組合に関する知識・能力の向上をはかり、スキルアップを目的とした基本資格、より高度で専門的な能力を身に付けるための専門資格、その他、業務上必要な資格や検定等、様々な資格取得を奨励しています。

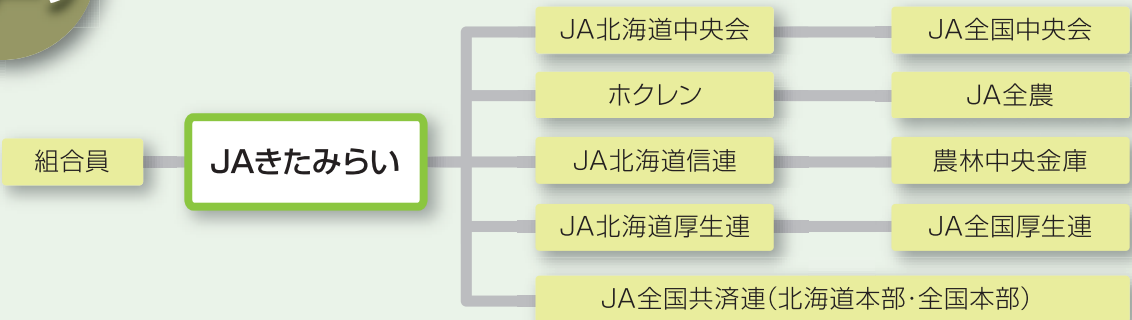
組織概要



- 名 称
- きたみらい農業協同組合
- センター所在地
- 北海道北見市中ノ島町1丁目1番8号
- 代 表
- 代表理事組合長 西川 孝範
- 出 資 金
- 5,012百万円
- 組合員数
- 7,840名
(うち正組合員数 1,750名、うち准組合員数 6,090名)
- 組合員戸数
- 1,106戸
(温根湯73戸、留辺蘂35戸、置戸110戸、訓子府296戸、
相内87戸、上常呂115戸、北見189戸、端野201戸)
- 職 員 数
- 326名(うち正職員数 256名) ※臨時職員等除く

- 沿 革
- 2003年
- きたみらい農業協同組合発足
(温根湯・留辺蘂・置戸・訓子府・相内・上常呂・北見・端野)
- 2004年
- 豆類乾燥施設施工
- 2005年
- 生産履歴記帳管理システム導入
- 2006年
- 第2次地域農業振興方策並びに中期経営計画
小麦乾燥調整貯蔵施設竣工
玉葱貯蔵施設竣工
- 2009年
- 第3次地域農業振興方策並びに中期経営計画
小麦乾燥調整貯蔵施設増設
- 2010年
- 哺育育成センター竣工
- 2012年
- 馬鈴しょ集出荷選別施設竣工
- 2014年
- 第4次地域農業振興方策並びに中期経営計画
生産資材拠点センター竣工

JAグループ



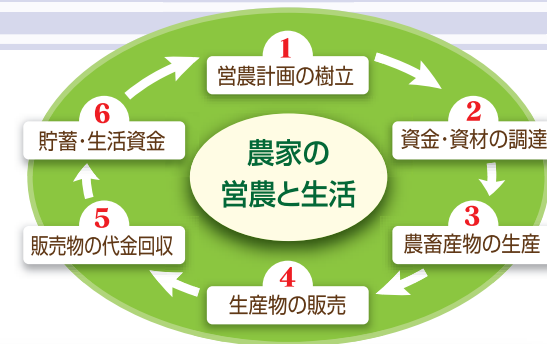
機構図

平成28年5月



JAきたみらいの事業

JAの事業は農家組合員の
営農サイクルに合わせた
事業を展開しています。



営農指導事業

農家組合員が自主的に技術や農業経営など、営農に関わる内容や生活を改善するための協同活動を助言・支援する事業

営農振興部

- 行政等と連携した農業振興
- 補助事業等の実施業務
- 担い手支援
- 教育・広報活動

組合員
ふれあい室

- 「出向く営農」の実施
- 農畜産物栽培の技術指導
- 経営相談の実施
- 組合員窓口対応
- 総合的地域開発業務

販売事業

農家組合員が生産した農畜産物をJAが集荷し、付加価値をつけて販売するという事業

販売
企画部

- 作目別部会事務局
- 農畜産物の集出荷・選別・販売
- 販売戦略の構築・きたみらいブランドの確立
- 選果施設の管理
- 加工品の開発

購買事業

農業生産に必要な資材や生活物資を共同購入し、組合員によりよいものをより安く、安定的に供給する事業

購買部

- 「出向く購買」の実施
- 生産資材の安定供給
- 農業機械・車両の供給・修理
- ガソリン・灯油・軽油等燃料の供給

信用事業・共済事業

信用事業

組合員からの貯金を受入れし、これを組合員に貸し付ける相互金融によって、営農と生活の改善・向上をはかる事業

共済事業

くらしの相互保障活動として、くらしに生じる不時の災害、組合員及び家族の高齢化や家屋等の老朽化などについて損害の補てんや蓄えとして長期的にくらしの安定を図る事業

金融
共済部

- 「出向く信用・共済推進」の実施
- 貯金の受入れ、引出しに係る窓口業務
- 融資の相談業務
- 共済契約者訪問活動
- 共済契約者の事故、入院等への対応
- 共済加入者の相談対応

管理部門

経営管理、活力ある健全な職場づくり、職員教育等、組織を支え運営していくための活動を行う

総務
企画部

- 年次計画・決算・財務に関する業務
- 中期経営計画・人事・労務に関する業務

監査部門

経営目標の効果的な達成に役立つことを目的として、内部管理体制が適切に評価し、問題点の改善方法について助言・支援を行う

監査室

- 監査の実施・内部統制の有効性評価
- 内部監査による情報収集と業務処理の効率化にむけた提案指導
- 不正・不当事件の未然防止

平成27年度 JAきたみらいの主な作目の作付面積、生産量、家畜飼養頭数

部門	区分	品目	面積(ha)	生産量(t)
農産	水稲	うるち玄米	45.2	257.6
		もち玄米	749.7	4,660.4
		水稲計	794.9	4,918.0
	麦類	春小麦	1,118.0	5,118.2
		秋小麦	4,533.4	30,308.1
		大麦	114.6	418.2
		麦類計	5,766.0	35,844.5
	豆類	大豆	191.7	482.9
		小豆	235.0	641.9
		金時	5.2	10.2
		虎豆	20.6	78.8
		大福	36.7	104.7
		白花豆	127.3	340.5
		紫花豆	91.6	240.0
青果	野菜	その他	8.1	30.6
		豆類計	716.2	1,929.6
		甜菜	3,844.7	231,622.8
		そば	18.4	16.6
		そ	20.8	0.7
		薬草	5.7	22.0
		農産計	11,166.7	274,354.2
	果	玉葱	4,577.0	281,171.1
		食用	1,590.1	53,760.0
		種子用	359.2	13,175.2
畜産	馬鈴薯	加工用	418.1	16,906.6
		澱原用	5.3	276.1
		馬鈴薯計	2,372.7	84,117.9
	肉用牛	ほうれん草	3.6	45.5
		スイートコーン	310.3	4,508.0
		メロン	8.3	198.2
		白菜	30.3	1,761.4
		人参	40.5	1,108.6
		レタス	6.4	172.8
		ごぼう	8.3	168.5
	乳牛	長芋	5.7	131.3
		イチゴ	0.7	12.6
		かぼちゃ	38.0	570.6
その他	青果計	赤玉ねぎ	82.9	4,497.5
		アスパラ	4.7	13.2
		ペコロス	13.6	386.0
	畜産計	その他青果物	95.4	2,767.8
		野菜計	648.7	16,342.0
		青果計	7,598.4	381,631.0
	畜産計	畜産計	18,765.1	655,985.2
		青果計	7,598.4	381,631.0
		畜産計	18,765.1	655,985.2

部門	区分	品目	数量(t・頭)
畜産	乳牛	生乳	89,808
		育成牛	398
		初妊牛	827
	肉用牛	経産牛	467
		小計	1,692
		初生トク	6,207
	その他	素牛	3,041
		肥育牛	283
		廃用牛	1,569
青果	野菜	小計	11,100
		豚	433
		馬	33
	畜産計	計	466
		畜産計	13,258
		畜産計	13,258
	青果計	畜産計	13,258
		畜産計	13,258
		畜産計	13,258
		畜産計	13,258

部門	区分	品目	数量(t・頭)
畜産	乳牛	生乳	89,808
		育成牛	398
		初妊牛	827
	肉用牛	経産牛	467
		小計	1,692
		初生トク	6,207
	その他	素牛	3,041
		肥育牛	283
		廃用牛	1,569
青果	野菜	小計	11,100
		豚	433
		馬	33
	畜産計	計	466
		畜産計	13,258
		畜産計	13,258
	青果計	畜産計	13,258
		畜産計	13,258
		畜産計	13,258
		畜産計	13,258

地域耕地面積(農産・青果・畜産)
25,183.3 ha

JAきたみらいの農産・青果・畜産取扱高品目別構成



